

南島原市ニュース

令和3年2月4日

タイトル 商船三井が創業の地でロ加高校生に海洋教育支援

県立ロ加高校グローバルコース（ロ之津町）では探究活動において、「早崎潮流発電プロジェクト」と題し、「早崎瀬戸の潮流を利用して発電ができないか」「早崎瀬戸の潮流発電は有効性があるのか」といった研究テーマについて、大学教授や企業有識者のボランティア講師によるリモート授業を昨年9月から行っています。

本プロジェクトは(株)大島造船所の親会社である、(株)ダイゾー代表取締役社長の相川武利氏（西有家町出身）の発案によるもので、地球環境問題など諸課題解決を担う若者を早い段階から身近な題材を通じてグローバルに活躍できる人材に育成したいという思いに基づきます。

これまで各分野の第一線で活躍する専門家による授業が8回行われ、「日本と世界のエネルギー環境事情」「地球温暖化問題」「海洋エネルギー開発」など幅広い内容を学んできました。

高校生向けの取り組みとしては、他に例がなく、昨年12月に本県で開催された第68回海洋教育フォーラム（主催：日本船舶海洋工学会主催）においても取り上げられ、注目される取り組みとして活動報告を行っています。

第9回（2月10日）には、ロ之津町で1878年に創業し、日本を代表する海運会社である(株)商船三井の技術部門のトップが登壇し、同社が取り組む北極海航路開拓や風力波力など再生可能エネルギー技術開発について説明していただく予定です。

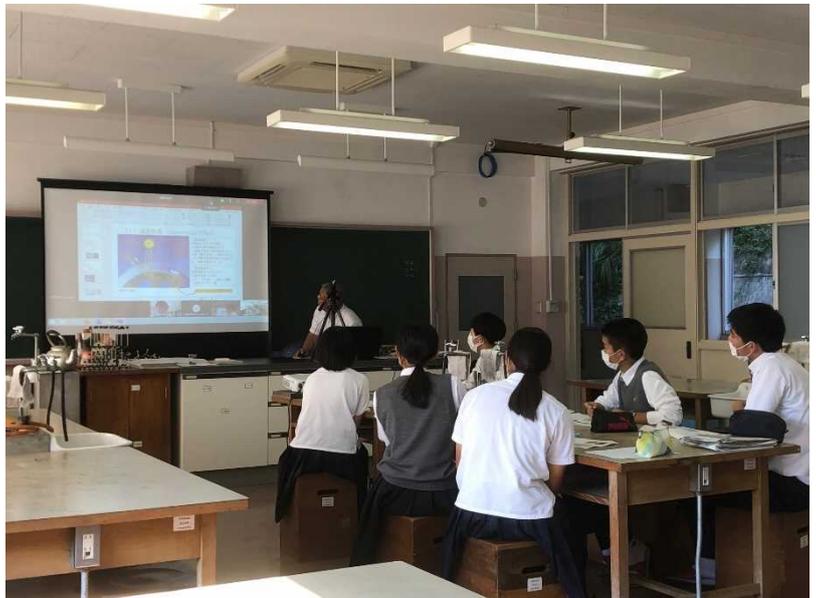
記

- 日 時 2月10日（水） 午後2時20分～4時
- 場 所 県立ロ加高等学校 就職指導室
※今回、早崎潮流プロジェクト班以外のグローバルコース1年生25名も別室（化学室）で視聴します。
- 講 師 (株)商船三井 技術部長 穴田 祐二 氏
海洋技術部長 泉 史郎 氏

担当部署	農林水産部 農林課	担当者	内田 繁治
直 通	0957-73-6661	E mail	nougvousenryaku @city.minamishimabara.lg.jp
詳しくは 		検索ワード	
担当者 連絡先			

商船三井 140 年の時を超え、創業の地で高校生に海洋教育支援 ～県立口加高校の探究授業（早崎潮流発電プロジェクト）～

我が国は、排他的経済水域（EEZ）で世界 6 位の面積を有しており、海域には黒潮や対馬海流といった巨大海流等の海流エネルギー、及び海峡域には潮流エネルギーが賦存しています。これらの自然エネルギーを活用すれば化石燃料を大幅に削減できる可能性があります。海流潮流のエネルギーのポテンシャルは風力の 830 倍ともいわれ、風力より安定的なエネルギーです。



長崎県立口加高等学校の眼下に広がる早崎海峡は、最大流速 2.8 (m/s)、平均流速 2.1 (m/s) 断面積が 286,000 m²、その賦存量は 576(MW)あり、賦存量としては、鳴門海峡、明石海峡に次ぐ日本第 3 位のポテンシャル高い海峡です。しかし、早崎海峡のポテンシャルの高さを知る地元の方は少なく、もちろん口加高校生も知る人は少ないでしょう。

早崎海峡の可能性、地球温暖化、我が国のエネルギーの現状、海外依存度、再生可能エネルギーの重要性などを、コロナ禍のもと日本で活躍中の有識者や技術者が外部講師となり、リモートで講義を行っています。

（9 月 15 日から始まった外部講師とテーマは別紙①のとおり）

このリモートによる教育支援の仕掛け人は、南島原市西有家町出身で株式会社ダイゾー（大島造船所の親会社）の代表取締役社長の相川武利氏です。

相川氏は、口加高校から身近な早崎海峡や海洋エネルギーを題材として、生徒が国内外の多くの先端情報に触れることで、地方と都会の高校の情報格差の是正にもつながり、実社会とのコンタクトによって、これからの進路の動機付けにもなり、選択肢を広げて将来地域に貢献する人材育成に繋がるとの思いから口加高校に提案したものであります。

口加高校グローバルコースは平成 29 年 4 月、「グローバル（地球規模の）」と「ローカル（地域）」を掛け合わせた造語で、「国際的な視野で考え、故郷を愛し故郷に貢献できる人材や、故郷から学び、故郷を理解し、国際的な貢献ができる人材の育成を目指す」ことを目標として創設されたもので、相川氏の提案がグローバルコースの目標と一致したことにより、今回の取り組みに繋がったものと思います。

令和 2 年 9 月 15 日から口加高校グローバルコースの探究活動「早崎潮流発電プロジェクト班」で、1 年生 6 名が外部講師から講義を受けています。

グローバルコースの探究活動は、令和 2 年 4 月から「生物班」「ジオ看板班」「ビジネス班」「環境班」「プログラミング班」「観光班」「防災班」の全 7 班に編成されておりましたが、9 月からは「環境班」の中に「早崎潮流プロジェクト班」を編成し、①早崎瀬戸の潮流を利用して発電が出来ないか、②早崎瀬戸の潮流発電は有効性があるのか等の二つを研究テーマとして活動しています。

2 月 10 日（水）に行う第 9 回講義は、(株)商船三井の技術部と海洋技術部の両部長に登壇していただきます。

商船三井の創業は 1878 年（明治 11 年）口之津港です。創設時の事業は、鉄製蒸気船「秀吉丸」で三池炭の海上輸送を口之津～上海間を開始されたと、商船三井のホームページで記載されています。

商船三井は口之津とは歴史的な繋がりが深い会社であります。

140 年の時を超えて、口之津で創業した会社の穴田技術部長様と泉海洋技術部長様が、口之津にある口加高校の生徒に講義を行うということは、なにか深い縁を感じます。

【現在までの講義】※括弧内はテーマ

- 第1回 9月15日 (株)ダイゾー社長 相川武利、元 IHI 部長 佐藤文男
「世界、日本のエネルギー、環境技術開発」
- 第2回 10月13日 立命館大学教授 稲澤泉
「地球温暖化問題と日本」
- 第3回 10月27日 船舶海洋工学コンサルタント合同会社 河邊寛
「私の海洋エネルギー事業との関わり」
- 第4回 11月10日 丸紅洋上風力開発(株) 栗島裕治
「海洋エネルギー技術」
- 第5回 12月8日 日本大学教授 居駒知樹
「潮流の発生源、海洋潮流エネルギーと技術」
- 第6回 12月22日 長崎大学教授 経塚雄策
「潮流の構造と発電技術開発」
- 第7回 1月12日 東京大学教授 高木健
「海洋エネルギーと技術開発」
- 第8回 1月19日 (株)レノバ 企画室長 大濱康弘
「再エネ発電事業を通じた社会変革の取り組みについて」
- 第9回 2月10日 (株)商船三井 穴田技術部長、泉海洋技術部長
「(仮)北極海航路開拓、省エネ運航技術、自然エネルギー利用技術」